

様式 5

平成 29 年度 学術振興基金助成による成果報告書

平成 30 年 3 月 31 日

学 長 殿

所属部局・職名 共生システム理工学類・教授

申 請 者 名 柴崎 直明

助成事業の区分 (該当するものに印)	研究協力に関する事業 ( 学術出版・叢書・学会等運営・学会参加 ) 学術振興に関する事業 ( 学生・事務職員・その他の特別事業 )
事 業 名	IGWC-2017 ( 第 7 回国際地下水会議-2017 )
事業実施期間	平成 29 年 12 月 11 日 ~ 平成 29 年 12 月 13 日
成 果 の 概 要	<p>2017 年 12 月 11 日から 13 日に、インドの首都ニューデリーで IGWC-2017 ( 第 7 回国際地下水会議-2017 ) が開催され、それに参加し 2 件の口頭発表を行った。申請者は 1988 年から 1990 年に客員研究員としてインド国立地球物理学研究所でインドの地下水に関する研究を行った経験があり、それ以降、インドの地下水研究者との交流が続いている。今回の IGWC-2017 においても、日本から 1 名の技術委員会メンバーを務めた。</p> <p>IGWC-2017 では、会議主催者から依頼され、招待講演として Analysis of deep groundwater development for arsenic mitigation ( ヒ素対策としての深層地下水開発の解析 ) を行った。また、一般口頭発表では、Current conditions of groundwater issues at Fukushima Daiichi NPS, Japan and groundwater study at Chernobyl NPP, Ukraine ( 福島第一原発の地下水問題の現状とチェルノブイリ原発における地下水調査 ) と題して、福島第一原発の汚染水問題の最近の状況と凍土遮水壁による遮水効果の限定された効果、および福島大学の SATREPS プロジェクトで取り組んでいるチェルノブイリ原発における地下水調査の研究成果を報告した。</p> <p>このほか、申請者は IGWC-2017 において、セッションの共同議長を務めるなど、会議の成功に大きく貢献した。さらに、IGWC-2017 には研究室の大学院生 3 名も参加し、それぞれ申請者との連名で研究成果の口頭発表を行った。</p> <p>IGWC-2017 にはインドをはじめ世界約 20 か国から約 300 名の研究者が参加し、その中で福島大学柴崎研究室が取り組んでいる地下水研究の成果を大きくアピールすることができた。</p>